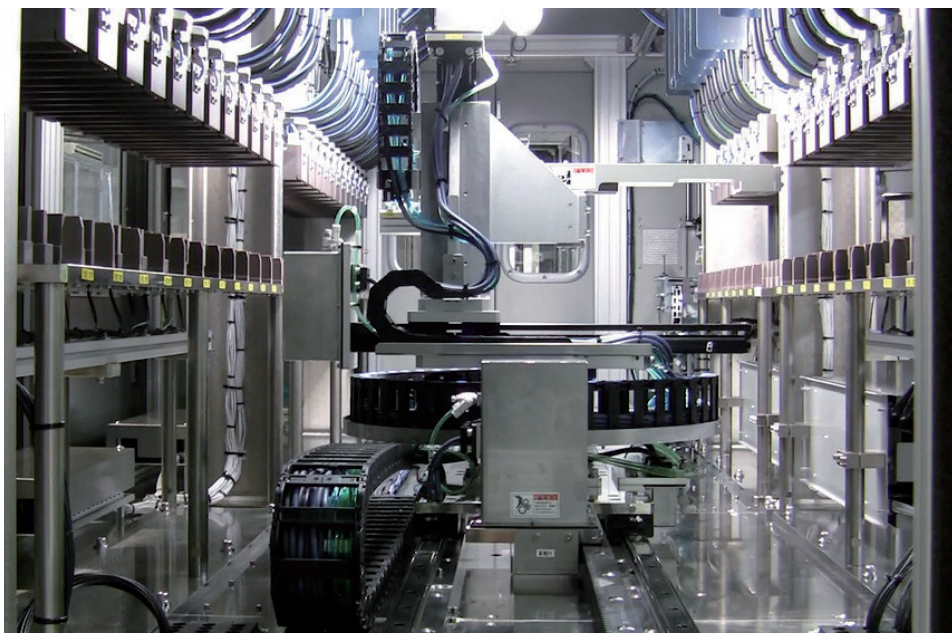


オー・エム・シー株式会社

製造現場の課題を 解決する装置を開発

企画力
自信有
オンリー
ワン技術
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット



予備充電装置を開発するなどリチウムイオン電池分野で幅広く活躍

業務内

抵抗溶接やレーザー溶接 技術を核に装置開発

抵抗溶接やレーザー溶接・切断技術、超音波溶接技術などを核に、製造現場の課題を解決する装置を企画開発している。本社内に実験室を置き、装置の企画立案に必要なデータの収集を行う。装置生産は外注するが、品質管理は自社で行っている。

これまで開発した装置の内容はさまざまで、電子部品やリチウムイオン電池、医療機器など幅広い業界に装置を納入してきた。リチウムイオン電池向けでは、電池の安全性を高める絶縁テープ貼り装置や、ケース溶接装置などを開発。同分野で欠かさない装置メーカーとなっている。



開発に必要なデータを取る実験室

強み 特許・知財権を活用し 顧客へ安心感を提供

特許事務所の所長が役員に名を連ね、特許・知財権に関するノウハウを持つのが強み。顧客の依頼に応じて独自装置を開発する際は、他社の特許を侵害しない装置を開発する必要がある。このため、新しい構造を持つ装置を開発した際は国際特許を出願し、ほかの特許と重複する部分がないかを判定してもらう。「特許使用料で収益を得るのが狙いではない。顧客が、当社装置を安心して使えるように特許出願している」と、渡邊信次社長は話す。しっかりとした知財戦略に基づき、新しい

発想の装置を堂々と開発できる体制を整えている。

少数精鋭 少数精鋭と専門家の 活用にこだわり

少数精鋭体制にこだわり、創業以来赤字を出さずにやってきた。「当社の装置需要は、企業の設備投資動向に大きく左右される。人の採用は慎重にやってきた」と、渡邊社長は振り返る。従業員の中には、大手家電メーカー出身者もあり、顧客に提出するデータをそろえる際にノウハウを発揮している。また、役員に弁理士が居るだけでなく、経理部門に会計士を迎えるなど、専門家の力も活用している。一方で、営業担当者も技術に明るく、各自技術で得意分野を持つようにしているという。社員それぞれが専門分野を持ち活躍している。

今後の展望 リチウムイオン電池向け 装置開発に注力

リチウムイオン電池のケース溶接装置で高シェアを持つが、同分野の課題を解決する装置の開発を続ける。金型が必要となるプレス加工の代替技術として、バリなどが出ないレーザー溶接装置を開発し、提案したい考え。溶接分野でも、余分な粉などが出ないレーザー溶接装置を開発し、同分野へ提案することを目指す。

また、再生可能エネルギー固定価格買取制度を利用して、平成25年から岡山県吉備中央町で太陽光発電事業を開始した。新たな収益源になると同時に、太陽光発電設備の運営ノウハウを蓄積、業容の拡大につなげようとしている。

COMPANY PROFILE

オー・エム・シー株式会社

大阪 27

当社の 歴史

当社はミヤチテクノス(株)〈現(株)アマダミヤチ〉の関西地区の販売拠点として誕生し、その後独立して現在の形になりました。その名残で、創業当初から大手家電メーカーや電機メーカーと取引があります。抵抗溶接技術をコア技術としてスタートし、現在は連続発振(CW)レーザーの応用技術など技術力の幅を広げています。

常に誠実をモットーにお客様とともに喜び合える
企業を目指します。

代表取締役 渡邊 信次さん



■主な事業内容

レーザー溶接機など販売、
産業用自動機開発・製作・
販売

■主な取引先(納入先)

電池・電子部品関連メー
カー

住 所/〒569-1026
高槻市緑が丘
2-3-12

T E L / 072-688-8331
F A X / 072-688-8332

創 業 / 昭和58年7月
設 立 / 昭和58年7月
資本金 / 8,000万円
従業員 / 11名

<http://www.jomc.co.jp>